

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892000019		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館 つくば 1F		
所在地	茨城県つくば市上原23		
自己評価作成日	平成21年7月9日	評価結果市町村受理日	平成22年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成21年8月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別レクリエーションや天気の良い日(時間が出来たら)に外出すること。 (例)ドライブに出かけ、途中、買い物をして帰ってくる事。ごく当たり前のことを行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から入り長閑な田園風景のなかにホームはある。明るい表情の利用者と職員の元気な挨拶が印象的である。 職員同士で日々のケアの振り返りと共に、短所や長所を言い合える関係作りを目指し、より良いケアの提供に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が、自分らしく生活していけるよう、理念を掲げている。(運営規定・基本理念・決り事十則)	法人の基本理念をもとに、人材育成や環境の整備を行うことで、理念の実現に向けたケアの提供を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の行事などに参加している。しかし、まだ、自治会への加入はされていない。今後の自治会加入については、検討中である。	近隣の方との日常的な挨拶を心がけ、小学校などのイベントへの参加も行っている。	地域の定期的な清掃活動などにも参加し、現時点で行える近隣との交流を大切にしていきたいことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への働きかけの場をヘルパー養成講座を通じて、多くの人に近隣住人に理解していただけるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営会議を行っている。参加者の意見などを聞くことにより、サービスの向上に努めている。	定期的な運営推進会議の開催により、地域住民よりホーム主催でのイベント開催の要望なども出ており、現在検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に運営会議に参加していただき、意見交換を行っている。今後も積極的に取り組んでいけるよう、考えている。	相談やアドバイスなどの意見交換が行なえる関係作りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵はかけていない。夜間は、防犯上の為、鍵をかけている。	勉強会や市との連携のもとで身体拘束をしないケアの実践を行なっている。ベッド柵の使用についても同意書や時間の指定など書式整備がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	つくば市地域連絡会の研修に参加することにより、管理者・職員ともに学ぶ機会を得ている。また、虐待が見過ごされることのないよう、努めている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	つくば市地域連絡会の研修に参加することにより、管理者・職員ともに学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の提携・解除の際は、ご家族・利用者様共に十分納得のいく説明をさせていただいた上で、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が出たときには、その都度納得のいくまで、説明・対応させていただいている。アンケートや意見箱は設置しているが、現在のところ、投函されていない。	利用者や家族の意見や要望は直接意見交換を行うことが多い。職員の異動等についても報告を行い、安心していただけるよう配慮している。	アンケートの様式の検討を行うことで、今まで以上に要望や意見を引き出す取り組みができることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の採用に関しては、本社にて一括しているが、利用者様は、職員全体にて、意見を聞きながら行っている。	職員ミーティング以外の場で食事会などを行ないながらコミュニケーションを取り、意見交換ができる環境づくりを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の採用に関しては、本社にて一括しているが、利用者様は、職員全体にて、意見を聞きながら行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・学習会など活発に行われている。出席できない職員については、DVDなど活用し、いつでも学習できるようにしている。また、幅広い分野の講師を招いて日々学習し、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1にて話ができるような場面作りをしている。また、要望などは、気付きシートやアセスメント様式を活用し、本人の要望・不安の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入居がある。その際、ご家族と話し合いながら、工夫をしている。また、近隣の病院などの要請があり、サービスを受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況を見極め、医療行為が継続的に必要な時は、優先している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事づくりや、掃除したりと、日常生活のなかで、話をしながら、昔の出来事や経験などを教えて頂いている。そして、暮らしが楽しくなるようなヒントを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを送付させていただいている。また、行事やレクリエーションに参加いただけるよう、連絡をしている。利用者様が、電話をかけたい時には、事前に電話のかけられる時間の把握をしているので、対応させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話を活用し、なじみの関係が途切れないよう工夫している。	家族の意向も配慮しながら、利用者との関係性が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も利用者様の輪の中に入れていただき、孤立する利用者様がいないようコミュニケーションを図っている。また、お世話好きの利用者様には、職員からお願いをして、役割を十分に発揮していただけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、当事業所関連の施設に転居できるような仕組みとなっている為、利用者様・ご家族と連絡を取り合い、支援させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様から、何をしたいのか等、傾聴する場面づくりをしている。また、意思疎通困難な利用者様に対しては、ご家族からの要望を聞き、出来る限り、思いに添えるよう努めている。	アセスメントを活用しながら本人の思いや意向を把握できるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴を把握し、個々が得意とすることを見つけ出し、率先して行っていただけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・申し送り帳・日誌などを活用して、心身状態・現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や、ご家族の意見を取り入れて、その人らしい生活が出来るように作成している。また、現状に沿わないときには、話し合いを行い、介護計画に反映させるようにしている。	入居者担当と計画作成担当が中心となって個別的な介護計画の作成を行なっている。	日々の記録と介護計画が連動することにより、モニタリングも充実したものになると考える。また、アセスメントシートの記入方法の検討をすることで利用者の変化が理解しやすくなると考える。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状態に変化があった際には、職員などで話し合い、意見交換をしている。また、ご家族や関係者との話し合いを設け、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身状況に応じて、対応できるようになっている。ご家族や利用者様の希望に添えるよう、話し合い、支援できるよう心がけている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練を行い、地域の消防署にご指導いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の協力体制が整っている。受診や通院などは、利用者様や、ご家族の希望に応じて対応している。	月2回の往診と合わせて、体調不良時には常に連携が取れる協力病院がある。また、年に一度の健康診断を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診・受診ともにいつでも相談が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会や相談員の方との連絡を行い、担当医師からの病状説明を受け、早期退院に向けての連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、利用者様や、ご家族の意向を聞きながら、最善の方法を取れるようにしている。	看取りの意向や本人の要望について入居時に確認し同意書は取っているが、現在ホームでの看取りを希望している方は居ない。	ホームの方針の明確化と共に利用者本人と家族の意向の再確認を行ない同意書の整備をしていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急など講習会を開催し、受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回の消防訓練を行っている。地震の訓練は、検討中である。非常災害用品など、備えている。	緊急持ち出し用の利用者情報のファイルが地域との連携はまだはかれていない。	訓練を行なった後に改善点の再確認を全職員で行うことでより安全・安心な訓練になると考える。また、地域との連携が図れるよう働きかけが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせての言葉使いや声掛けを心がけている。	利用者の馴染みのある言葉での会話や交流に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、利用者様とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築くとともに、個人の意見尊重・決定権を利用者様本人に、と努めている。意思疎通困難な方には、出来る限り職員から働きかけ決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて日々生活が出来るように支援している。季節の行事など取り入れながら、希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当事業所の移動美容室に来てもらい、希望に応じて、利用できるようになっている。日常生活においては、本人の希望を聞き、一緒に買い物へ出かけたりするよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞き、献立に反映できるようにしている。利用者様と職員がテーブルを囲み、楽しく食事が出来るよう、雰囲気大切にしている。	週代わりで食事担当者が献立を立てているが管理栄養士への相談も行なっている。また、利用者と共に食事を取りながら会話を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に応じての食事量や、水分などを確認している。また、管理栄養士のアドバイスを受けて、体調管理に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施だけでなく、定期的な歯科往診にて、口腔内の清潔の確保に努めている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その人にあったトイレ誘導を行っている。また、使用後には、常に清潔を保つようにしている。	ケアプランのなかでも排泄の援助方法について立案しており、個々にあった排泄の支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、食物繊維の多い食品を献立に取り入れたり、利用者様が行える範囲での適度な運動をしている。また、便通により、お茶を飲むようにしている。便秘マニュアルにての対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日、希望する時間に入浴できるように支援している。介助が必要な利用者様には、安全を考慮し、風呂がま自体を移動させ、対応している。	利用者のペースや意向に合わせて入浴の支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時は、布団などの寝具類や、居室の温度、湿度管理にて、調整を行っている。天気の良い日には、布団星を実施している。ゆっくりしたいときなど、和室や、ソファにて、休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、職員2名にて、確認後、服薬いただいている。また、薬の内容を理解し、指示通り服薬できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が、生き生きと役割が発揮できるよう、一人ひとりに合わせて、日々の生活の中で家事手伝いなど行っていただいている。また、毎月のレクリエーションにて、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞きながら、外出するようにしている。外出を通して、季節感を味わっていただけるよう心がけている。	毎月1～2回の全利用者との外出を企画したり、個々に合わせた外出支援がされている。また、夕涼みなど、庭に出る機会も多くしている。	

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別レクリエーションを活用し、有意義な時間を過ごしていただけるようにしている。基本的には、利用者様は金銭を持たないが、ご家族と相談の上、事務所管理としている。また、出納時は、レシートを添付し、使用内容を明確にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、利用したいとき利用いただいている。また、ご家族などからの電話の際は、いつでも取り次ぎが、出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、家庭的な雰囲気作りに努め、居室入り口には、手作りののれんを下げている。	利用者が手作りした暖簾を各部屋に使用していたり、季節感のある装飾で落ち着いた雰囲気である。光彩も取れており、明るく清潔な共用空間の提供がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、和室には、季節に応じて、コタツやテーブルを置き、誰でもいつでも好きなように使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活に使用していた、家具や食器などを持ち込んでいただいている。また、一人ひとりに合わせての環境づくりを支援している。	利用者それぞれの大事にしてきた物が置かれた温かみのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など、わかりやすく表示している。居室には、表札や写真などを掲示し、わかりやすいようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	○チームでつくる介護計画とモニタリングケアプランに基づくケース記録(経過記録)がされていない アセスメントシートの記入方法の検討、見直しをするべきである。	ケアプランに沿った対応の経過記録を行っている。 アセスメントシートの記入方法を明確にし、実施している。	経過記録シート又はノートを作成 アセスメントシートの記入方法の見本、説明マニュアルの作成	3
2	35	○災害対策 災害対策としての避難訓練が自分達だけのものになっており地域との連携が図れていない	年2回の消防・避難訓練の継続。 避難訓練を行った後に改善点の再確認を全職員で行い、より安全・安心な環境の維持をしていく。 地域の情報を得て避難訓練に参加させていただく。	消防・避難訓練時、消防署と連携を図り地域の情報を得て参加していく。	6
4	2	○事業所と地域とのつきあい 地域と事業所との交流の場が少ない。	地域運営推進会議やグループホーム連絡会で情報を得て近隣の方々と交流できる場を知り参加していく。 自治会への加入を検討する。	自治会への加入。 散歩、買い物時にはゆとりを持って行うことにし、地域の方々と交流を図る。	6
3	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 看取りについて	常に利用者様の状態を把握することはもちろん、常にご家族と連絡をとり緊急対応時に備えた環境作りを行っていく。	定期的にご家族と連絡をとり、その時々意向を知る。 利用者様の状態に合わせたケアが出来るようにスタッフの育成を図る。	3
5	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 今のところ苦情等はないが、面会時に意見、要望を伺い運営に活かしているのが現状。より良い環境を作る為の方法を思案するべきである。	利用者様、家族が本当に望まれていることや意見を書き込み易い書式にし(無記名も可)投函いただく。そこで情報を得て、運営に活かしていく。	ご家族からの意見・要望を聞くため面会時等、利用者様の状態をより詳しくお伝えする。 定期的に連絡をし、情報を共有していく。 アンケート用紙の様式変更を検討する。	3

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。